



市制施行70周年記念マンホール

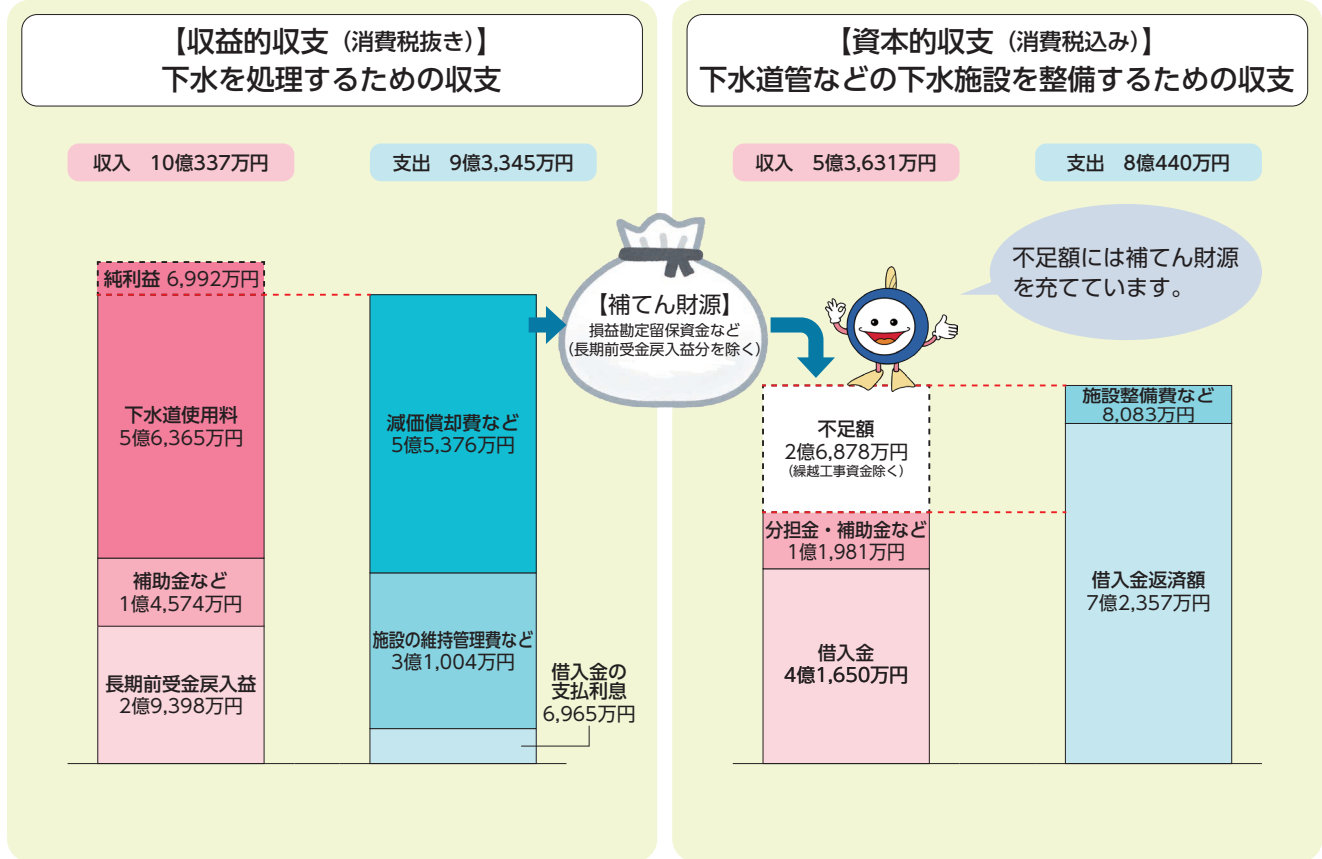
下水道事業

日本下水道協会キャラクター「スイスイ」

下水道事業は約6,992万円の純利益

下水道事業は、公共下水道と農業集落排水の2つの事業を実施しています。水道事業同様、公営企業として「地方公営企業法」に基づき、下水道使用料や補助金などを主な財源とする「独立採算制」を基本に事業を運営しています。

令和6年度の下水道事業会計決算についてお知らせします。



【下水道事業の業務概要】				
項 目	説 明	令和6年度	令和5年度	前年度比
処理区域内人口	下水道が整備されている区域内の人口	22,459人	22,718人	△ 259人
水洗化人口	下水道管に接続している人口	20,320人	20,503人	△ 183人
年間総処理水量	家庭などから流された年間汚水量	2,769,749㎡	2,699,550㎡	70,199㎡
年間有収水量	総処理水量のうち使用料の対象となった汚水量	2,549,388㎡	2,499,376㎡	50,012㎡

令和6年度に実施した主な事業

令和6年度は、4箇所の公共ます設置工事及び5箇所の汚水マンホールポンプ監視装置更新工事のほか、繰越事業である（仮称）白石中央スマートインターチェンジ周辺管渠整備実施設計業務及び白石市災害監視システム構築業務を実施しました。

今後も「白石市下水道ビジョン」に基づき事業を行い、安全で快適な生活環境の構築に貢献する下水道を目指します。

下水道事業会計決算の概要

収益的収支については、収支差し引きで6,992万円の純利益を計上しました。この利益は、累積している欠損金の解消に充てられます。

また、資本的支出において、下水道整備に借り入れた借入金の返済額が年間7億円を超える状態が続いており、経営圧迫の要因となっています。なお、資本的支出に対して資本的収入が不足する額については、補てん財源で賄っています。



▲災害監視システム構築業務により設置した防災カメラからの映像

☎ 上下水道事業所 25-5522



水道事業

日本水道協会キャラクター「Dr. すいどー」

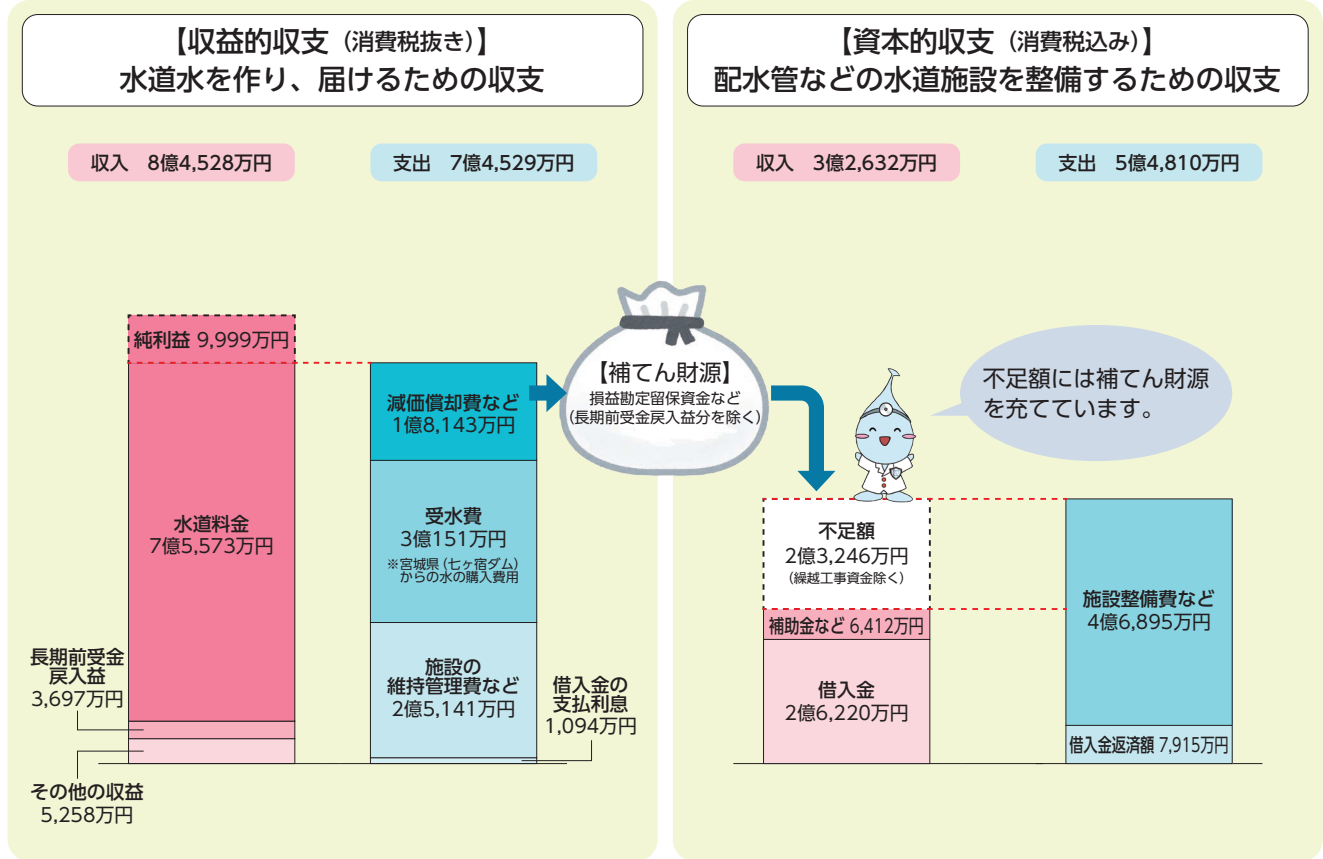
水道事業は約9,999万円の純利益

水道事業は、公営企業として「地方公営企業法」に基づき、水道料金を主な財源とする「独立採算制」を基本に事業を運営しています。公営企業の収支は、一般会計とは違い「収益的収支」と「資本的収支」という区分で経理を行っています。

令和6年度の水道事業会計決算についてお知らせします。



貯蔵品性能検査



【水道事業の業務概要】				
項 目	説 明	令和6年度	令和5年度	前年度比
給水人口	水道により給水を受けている人口	29,305人	29,808人	△ 503人
給水戸数	水道により給水を受けている戸数	13,480戸	13,467戸	13戸
年間総配水量	配水池などから配水された年間水量	3,791,762㎡	3,708,015㎡	83,747㎡
年間有収水量	総配水量のうち料金の対象となった水量	2,840,205㎡	2,847,108㎡	△ 6,903㎡

令和6年度に実施した主な事業

令和6年度は、大鷹沢大町・幸地区の老朽管更新工事のほか、繰越事業である送水管布設工事（2工区）、長町・不澄ヶ池・清水小路地区の老朽管更新工事が完了し、送水管布設工事（1工区）、水道管路緊急改善事業配水本管更新工事に着手しました。また、鷹巣配水池の第二受水池情報伝送装置及び弥治郎配水池の配水流量計について更新工事を実施し、水道施設の強化を図りました。

今後も「白石市水道ビジョン」に基づき事業を行い、安全・安心で将来に受け継げる水道を目指します。



▲幸地区の更新した配水管（耐震管）

水道事業会計決算の概要

収益的収支については、収支差し引きで9,999万円の純利益を計上しました。この利益は、今後老朽化した水道施設の更新などに使用する予定です。また、資本的支出に対し資本的収入が不足する額については、補てん財源で賄っています。